



学内探訪 チャーチオルガン

機種:河合チャーチオルガン(ヨハネスモナーク 2A-パイプ型スピーカー機能付き)

「沖縄キリスト教短期大学のチャペルにパイプオルガンを贈る運動」

実行委員会委員長:伊波 盛次郎

待望のオルガンが設置されました。うれしくてなりません。沖縄の諸教会と多くの信徒同窓会の皆さん、並びに全国にわたってご支援して下さいました皆さまには心から感謝を申し上げます。

また実務委員の先生方は多くの時間と労苦を捧げて下さいました。オルガンの設置はそのご努力の結果だと信じております。古代、音楽は、神さまを慰めるためのもの、後代に至っては貴族王侯たちのためにあったようです。また、結婚式とか葬儀への奉仕が目的であったようです。今日では、耳を澄まして音楽を聞き心を豊かに生きる時代になりました。この捧げられたオルガンの美しい音色がチャペルに集う多くの人々の心を豊かに慰められていく役目を負っていることを思うとき、設置委員全員を神様が用いて下さったことに心から感謝する者であります。最後に、募金にご協力下さった皆様方、音楽のご指導と「室内楽の調べ」を企画して下さいました真栄城隆司先生には満腔の感謝を表したいと思えます。

(2000年12月16日引渡式)



待望のチャーチオルガンがチャペルに設置されたのは2000年11月27日、翌月12月16日に引渡式が行われました。オルガンを贈る実行委員会の伊波盛次郎委員長から神山繁實学長にオルガンのマスターキーと説明書が手渡され10年余の贈る運動が結実しました。引き続き催されたお披露目演奏会で、26期卒業生の田頭秀美さんが素晴らしい音色を響かせて下さいました。現在、チャーチオルガンは主にクリスマス礼拝等短大行事で演奏されますが、公開講座による一般開放も行っています。

人事

▲ 2000.10月1日~2001年3月31日

採用(2000年10月1日付)

金 永 秀 総合教育系講師
知念 一郎 参与兼50周年記念事業推進本部事務局四大設置準備室長

退職(2001年3月31日付)

渡久地 政 順 総合教育系教授(定年退職)
下地 玄 毅 英語科教授(")
儀間 朝 健 保育科教授
大城 実 総合教育系特任教授終了
Craig K. Jacobsen 英語科助教授
山原 恵 治 参与兼50周年記念事業推進本部事務局記念行事・財務室長

金城 直 秀 総務企画課長

▲ 2001.4月1日~2002年3月31日

昇格(2001年4月1日付)

山城 真紀子 保育科教授

採用(2001年4月1日付)

新垣 誠 総合教育系助教授
村田 典 枝 英語科助教授
吉村 壮 明 保育科講師

採用(2002年1月1日付)

新川 武 雄 事務局長

異動<2001年4月1日付>

上原 明子 総合教育系主任(任期2001.4.1~2003.3.31)
James A. Ross 英語科長 (" ")
山城 真紀子 保育科長 (" ")
金 永 秀 宗教部長代行 (" ")
真栄城 隆 司 教務部長 (" ")
前里 光 盛 学生部長 (" ")
島 袋 忠 雄 図書館長 (" ")
西 銘 純 子(図書館課長) → 総務企画課長

<2001年9月1日付>

吉濱 幸子(学生課書記) → 就職課主任
玉 寄 勝 也(就職課書記) → 学生課書記
仲宗根 末 美(財務課書記) → 教務課書記
澤 岨 千 賀 子(教務課書記) → 財務課書記

退職

<2001年10月31日付>

窪田 紀子 図書館書記

<2001年12月31日付>

大城 宜太郎 事務局長

<2002年3月31日付>

伊志嶺 博 志 英語科教授 (定年退職)
神山 美代子 保育科教授 (")
知念 一郎 四年制大学設置準備室長 (")
神里 博 武 保育科教授

編集後記

勤続25年のベテラン職員より「学報というものは、学校の歴史を記録してゆくものだ」と聞きました。4年制大学に向けて学内に多くの素晴らしい変化が起きています。学報を通してその一つ一つの歩みを網羅し、学報委員全員で本学の繁栄に貢献してゆきたいと思えます。(K.M)



沖縄キリスト教短期大学

2002年4月20日発行

沖縄県西原町字翁長777

☎(098)946-1240 ㊟(098)946-1241

編集・発行

沖縄キリスト教短期大学学報委員会

URL <http://www.ocjc.ac.jp/>

学 報 第48号



記事内容

★四年制大学設置に向けて……学長 神山繁實

★キャンパスニュース

キャンパスネットワークのリニューアル/
コールアシスタント・プログラム/新任教師紹介/
本学を訪問された主な方々/ジョージフォックス大学視察
シンポジウム「日韓関係の将来を考える/
退職される先生方/大学生活

★地域交流

夏休み仲良しプログラム/小学校英語授業ボランティア/
チャレンジウィーク(国際交流で心の教育)

★キャンパス・ライフ

「意思前進」……正岡伸悟
「キリ短で学んだこと」……郷土文化研究サークル
「みんな、みんな、ありがとう!!」……ともとむね
「キリ短が与えてくれたもの」……高良園美
(留学生紹介)……陳新本(中国)
(児童文化研究サークル活動)

★同窓会便り

★寄付感謝報告

★2000年度決算報告

★学内探訪「チャーチオルガン」

★人事

表紙写真:(新入生オリエンテーションキャンプ・渡嘉敷島にて)



21世紀への新たな挑戦 —四年制大学設置に向けて—



学長 神山 繁 實

1. はじめに

沖縄キリスト教学院は、宗教改革の伝統に立つプロテスタント・キリスト教を建学の精神とする沖縄県内唯一のキリスト教高等教育機関であります。本学は、第二次世界大戦直後の沖縄キリスト教団の指導者たち、特に仲里朝章牧師が、かつて学校教師時代の誤った教育のために、多くの教え子を戦場へ送り、死に至らしめた戦争協力に対する真摯な罪責の念から出発しました。仲里朝章先生は、戦争によって荒廃した郷土の再建を図るためには、「新しい酒は新しい革袋に入れなければならない」という聖書の言葉を現実化するために、皇国史観から転換して聖書に基づく普遍的人類愛と国際的平和を希求するキリスト教の理念を根底に据えた教育が必要であるとの反省から沖縄キリスト教学院を設立したのであります。

2. 50周年記念事業と四年制大学設置

理事会は、沖縄キリスト教学院創立50周年を目前に、教育・研究の高度化に対応する教育システムの質的量的向上を図るため、創立50周年記念事業の一環として四年制大学を設置する決断をしました。記念事業を推進するため、理事長を記念事業本部長とする四年制大学設置委員会（委員長は学長）と募金委員会（委員長は副理事長）が組織され、四年制大学設置準備室が設けられました。具体的な作業は、四年制大学設置委員会・設置室において進められ、常任理事会の議を経て、2001年2月28日に全職員対象に説明会が行われ、学内コンセンサスを経て教授会の決議（2001年3月1日）、理事会（2001年3月16日）の最終決定により、四年制大学設置準備作業が本格的に始動しました。大学はそれぞれの建学の精神に基づいて、特色ある教育を施すことが要求されています。特に、私立大学は、現代社会の要請に応えつつ、自らの建学の理念に基づいて、人類が志向すべき将来像を教育において提示していく責任を負っています。

近年、規制緩和が教育界にも及び、大学設置基準も規制緩和の方向にあり、現キャンパスに現短大入学定員の枠内で一部改組転換して、四年制大学を設置することが可能になりました。しかし、校地・校舎の規制が緩和されたものの、教員の資格審査や大学設置経費（四年間の人件費と事業運営資金全額の設置前確保）等が緩和されたわけではありません。つまり、教育・研究の質は、落としてはならないということでもあります。厳しい不況の中、本学院はあえて四年制大学設置に踏み切ったのは、大学（にとつて）冬の時代を切り抜けるだけの理由ではありません。上に述べたように、建学の精神を堅持して、これまで本学が築いてきた教育的伝統をさらに強化し、沖縄が置かれている地理的・歴史的・文化的特質を踏まえてコミュニケーション能力を高め、平和の使者として国際社会に貢献できる人材育成を推進するためであります。また、沖縄の地に据えられた県下唯一のキリスト教大学の教育の質的向上を図るため、「今」の時期を逃しては時宜を逸するとの判断からであります。

3. 国際化・情報化の時代

国際化・情報化は、コミュニケーションにおいて軸を一にするもので、別ものではありません。教育・研究の高度化・社会・経済環境の急速な変化の時代に対応して、適切に先を読み、課題に対処できる問題解決型の人材育成が必要とされています。新しく設置される四年制大学の教育課程もこの基本方針に基づいて作成されていて、新学部学科において建学の理念を具現化し、平和で豊かな地域社会と国際社会の建設に貢献できる人材の育成を目指して、編成されています。また、本学院が四年制大学を設置することにより、これまでの教育的伝統をさらに前進させ、グローバル化・高度情報化に対応し、時代が必要とする人材を国内外へ送り出すことを目指しています。同時に、四年制大学設置によって、本学が、これまで、実施してきた海外研修に加えて、海外から本学への研修生や留学生を多く迎えられるようになります。すなわち、本学の四年制大学設置によって、海外の大学との友好関係や協力提携関係が一方的ではなく、双方向的・互恵的関係を強化できるようになります。それによって、沖縄県が目指す「国際交流拠点形成」と我が国の高等教育の発展に貢献できると確信します。更に、本学が生涯学習時代にふさわしい装いをして、地域社会への積極的な

貢献ができるような学園を築いていけることを願っています。

4. 学部の方向性

学部は「人文学部」「英語コミュニケーション」と決定されました。この学部名は、保育系の四大化を視野に入れるならば、「人文学部」は予定学科を適切に包摂できる学部であると考えます。

両科共、キリスト教的価値観や人間観をベースにした全人教育を目指し、地域的に、国際的に活躍できる人材の育成を図る目的をもって設置されます。国際的と言うときに、必ずしも国外に出ることを意味しません。斬新的な国際感覚を身につければ、国内にいて国際的な仕事もできる時代になってきています。

大学設置の目的を遂行するために、設置する大学・学部・学科の理念に沿った教育課程・カリキュラム・教員の配置が求められます。これからの日本の大学も、教育先進国アメリカ並に大学淘汰の時代に入りました。新しい大学が、より良い教育をし、生き残っていくために、特色ある教育を実施できる体制を整える必要があります。

本学が約10年来、四年制大学設置作業において一貫しているラインは、建学の精神であるキリスト教の理念をベースに教養教育を重視した教育課程を編成して、教養豊かな専門性を有する高度の異文化コミュニケーション能力と高い倫理性とを兼ね備えた人材の育成に重点を置くことを継承し、現四年制大学設置委員会の中のコア委員会もこの基本線を踏まえつつ、新たな展開をしてきました。「英語コミュニケーション学科」は、従来の「英語科」や「英文科」あるいは現在はやりの「英語コミュニケーション学科」とは趣を異にし、徹底して実践英語教育を行います。しかし、英語そのものが目的ではなく、英語をツールとして駆使し、他の専門分野を英語で学べる力を身につけさせることを目的とします。ここで細かいことはこれ以上触れませんが、他に類を見ないユニークな教育実践を目指していることは、確かであります。

「Number one」よりも「Only one」の教育を目指したい、これが委員会が目指してきた方向性であります。

「Number one」よりも「Only one」の教育を目指したい、これが委員会が目指してきた方向性であります。

5. おわりに

本学院四年制大学設置を50周年創立記念事業の目玉として推進することは前述した通りですが、

50周年にあたる2007年に開学するには、日本における教育環境の激変が予想されるため、財政的に厳しいにもかかわらず、2004年4月開学に踏み切りました。

現在の本学院の財政事情は、次年度予算会議で説明があったように、かつてない厳しい状況にあります。財政改革に取り組みつつ、四大設置のための自己資金造成の計画を策定しましたため、各部署には多大の節減協力をいただいで感謝に堪えません。また、全学挙げての協力のお陰でほぼ計画通り、第1歩を踏み出せる見通しができたことは感謝です。

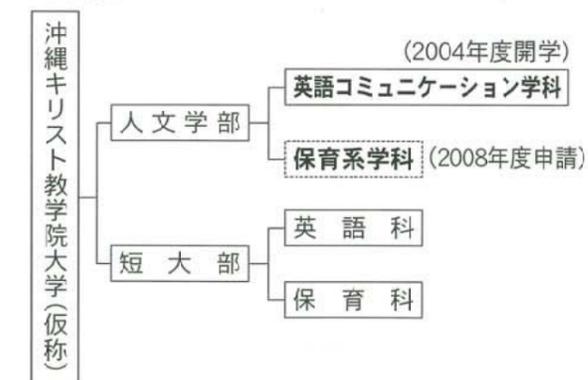
更に、本学院の四年制大学設置の目的は、教育の質を確保し、向上させることにあり、この目的のために教育施設設備の整備のため、高額の資金造成が必要であります。これを達成するため、理事会をはじめ、関係者による全学的な取り組みが必要であることは論をまちません。

理事会サイドでは、既に、受配者指定による寄付の実施を予定して、具体的に動き始めています。先ず、本学所在地の町内外の企業等からのご協力、県内は勿論の事、県内外のキリスト教会や関係企業からのご協力を仰がねばなりません。学内においてできることは、教職・事務職員の指定寄付等と同窓会、後援会、その他協力団体への募金活動の橋渡しと実施をお願いしなければなりません。

この学園に属する人々、志しを同じくする人々と、ここを合わせて次の時代に残せる大学を造る備えをしていきましょう。

学部・学科の概要

■組織図





キャンパスニュース

キャンパスネットワークのリニューアル

1997年5月に構築された本学のキャンパスネットワークが2001年5月にリニューアルされました(研究室と事務室はリニューアル対象外)。

今回のリニューアルで教室コンピュータのOSはWindowsNT4.0からWindows2000へと移行し、一部を除いてアプリケーションも最新となり、教室コンピュータも高機能・高性能となりました。ネットワーク構成で大きな変更点として、これまでのフラットなネットワーク形態を使用目的毎にゾーン分割し、運用面とセキュリティ面、及び利便性を向上させました。

又、学外(学術情報ネットワーク)との接続、正確には本短大と琉大間のインターネット用の専用回線が電話線(メタル)の128kbpsから光ファイバの1.5Mbpsに強化され、物理的なデータ転送量がこれまでの12倍となり、教室コンピュータ/サーバ間も10Mbpsから100Mbpsへと高速通信が可能となりました。

今後はコンピュータネットワークの本来の目的である資源(情報等)の共有と利用者が必要としている情報の提供に重点をおき、効果的なキャンパスネットワーク利用が可能な環境構築を目指します。

最後に、学外(外部)と接続されたコンピュータ利用者は社会の一員として自己管理責任を強く求められます。教室コンピュータ環境と情報教育ネットワーク(コンピュータ)利用ガイドラインをよく理解して情報機器を大切に取り扱いして下さい。
図書館情報センター課 友利 道明/與那原 馨



コール CALLアシスタント・プログラム

CALLとはComputer Assisted Language Learningの略でコンピュータを使用した語学学習のことです。1990年代前半に米国で始まり、日本でも1995年あたりから語学教育の世界で注目されています。

CALLは誰でも、ある程度コンピュータを使えば、自分の好きな時間に好きなだけ、語学をインターアクティブに自学自習できるという利点があります。それだけなら、今までのLL(ラボ)とあまり変わらないのですが、記録メディアが従来のカセットテープではなく、コンピュータのメモリに記録されているということで、CD-ROMひとつに音声や画像、動画(ビデオ)等も収録でき、より、臨場感のある語学学習ができるというところに特徴があります。デジタルな媒体に記録されているので、多くの情報がコンパクトにまとめられており、場所をとらず、カセットテープのように劣化することはないという利点もあります。本学ではコールアシスタント・プログラムを1998年より発足させ、毎学期、コンピュータの得意な学生を約15人リクルートし、CD-ROMの貸し出しや、学生が学習する際のサポートをまかせています。学習室には20台のCALL専用の端末とヘッドフォンを設置しています。そしてコール・アシスタントは水色のリボンのついた名札をつけて、オーラルイングリッシュクラスにおいて外国人の先生のサポートを行っています。学生のアシスタントを配置することによって、CALLを多くの学生に浸透させることができるとともに、アシスタントの学生も、学内で勉強しながらアルバイトができる、という点で画期的なプログラムだと思えます。

英語科助教授 宮 国 薫 子



新任教師紹介



こんにちは

英語科助教授

村田 典 枝

前年度退職なされた下地玄毅先生の後任として、4月より英語科の教職コースを担当しています。3月までは、高校に勤務しておりました。西原高校を皮切りに、久米島高校、浦添工業高校、那覇高校、そして最後の那覇西高校を退職するまで、約20年間高校で教鞭をとってきました。その間、普通科をはじめ、農業科、家政科、工業科、調理科、看護科、体育科、国際人文科で学ぶ生徒たちを教え、多様な可能性を持つ生徒や彼らを一所懸命指導する同僚たちとの出会いを通して、私は多くのことを学び、自分の中に教師としての成長をみることができたと確信しています。教師を目指す若い人々に、日々の教育実践を通して、教師自身も生徒と共に学び共に成長するのだということを伝えたいと思っています。そして、より現場体験に基づいた教員養成を図り、実りある教育実践の方法論を学生たちと確立していきたいと考えています。



沖縄の「在日」より 「アンニョハセヨ」

総合教育系講師/宗教部長

金 永 秀

2000年の後期から赴任しました。金永秀(きむ よんす)と申します。「在日Korean二世」として、「灘の生一本」と「甲子園」でおなじみの兵庫県西宮市で生まれ育ちました。沖縄に来るまで、サンフランシスコのベイエリアで学生生活を送っていました。

San Francisco Theological Seminaryでドクター課程を終えました。沖縄に来た当初は、冬でも春のように暖かく感じたのですが、昨年の冬は研究室にストーブが入りました。

沖縄キリスト教短期大学が、沖縄戦の荒廃の中で、キリスト教精神による真の復興を目指して設立されたことに感動いたしました。キリスト教の歴史と思想に関心がありますが、特にキリスト教と天皇制と在日Koreanを結ぶ事への探求は、自分にとって大きな課題です。マイノリティーが互いに理解し合い、連帯しあうことは、マイノリティーだけでなく、社会の新しい地平を開くと信じています。趣味は音楽と体を動かす事です。学生時代は空手をしていました。音楽は下手の横好きで、歌うこと、フルートを吹くこと、そして聴くことが好きです。単調ですが深みのある、バロック音楽が好きです。



国際人から世界市民へ

総合教育系助教授

新 垣 誠

21世紀を迎えた最初の年、私たちが目にしたものは国際テロの恐怖であり、新たな戦争の幕開けでした。1990年代、急速に進んだ経済のグローバル化と共に、世界中で貧富の差が拡大、ダイエット商品の代金で難民が何ヶ月も餓死を逃れられるという矛盾した世界に私たちは生きています。パレスチナ問題を始めとする様々な民族・宗教間の対立も未解決のまま私たちの頭上に押し掛かっています。このような世の中を生き抜く上で新しい世代に求められているものは、瑞々しい感受性、知性をともなった豊かな想像力、そして新しい未来を描き出す創造力なのです。もはや私たちに求められているのは単に世界で通用する国際人のスキルだけではなく、生活のなかで世界を意識し、世界の人々を隣人と感じながら暮らす世界市民の感覚なのです。自らの感性を研ぎ澄ます努力を怠ることなく、学生と真剣に向い合いながら、そのような感覚を養う教育を目標にがんばります。



子ども・表現・沖縄

保育科講師

吉 村 壮 明

かの岡本太郎の沖縄文化論『失われた日本』を読んだのは、大学1年の夏でした。そこでは欧米的なモダニズムとは一線を画した方法論を探る視点として、豊かな沖縄の文化に目を向ける意義が岡本の視点から述べられていましたが、当時、私は日本の「内なる他者」としての沖縄文化に強い憧れを抱いた記憶があります。その本に出会ってから約十年後、こうして沖縄キリスト教短期大学にお世話になることとなり、大変、感慨深いものがあります。私は大学時代に美学美術史(特に戦後の現代美術)、大学院では美術教育学を専攻し、その後、九州の公立中学校や国立大学附属中学校、私立ミッション系女子高校で数多くの子ども達と関わりました。その中で気づいたのですが、私の志向はマージナルなもの、マイナーで周縁的なものに向いており、その可能性を探る事に関心があるのではないかと事です。例えば、「子ども」という存在や日本文化における「現代美術」という領域、そして、まさしく日本における「沖縄」の文化。

私はこれら表現教育の観点から学生と共に考えていきたいと思っています。そうした視点こそが、もしかすると現代思想の様々な課題と共鳴するかもしれないし、そこに表現の教育の可能性もあるように思います。



■本学を訪問された主な方々(2000年10月~2001年12月)

5月28日 Rev. Yasala Hola (台湾基督長老教会PCT)	10月10日 Wayne Kooiker氏(Northwestern College前副学長)
5月29日 竹前昇氏(日本基督教団総幹事)	12月4日 識名朝勝氏(George Fox University教授)
5月31日 高俊明氏(台湾基督長老教会元総幹事)	10月26日 全国大学・短期大学実務教育協会
7月23日 Paulette Irons博士(米国ルイジアナ州議会の上院議員)	佐藤啓子氏(理事)、佐藤東久雄氏(常任理事)
9月2日 三浦光世氏(歌人)	三田孝子氏(主任)



ジョージフォックス大学視察

留学希望者が多い現状で、新たな留学先開拓のため、本学からJames Ross国際交流室長と新垣誠国際交流委員が2001年9月11日にジョージ・フォックス大学(オレゴン州)を視察しました。キリスト教系の大学で治安も良く、安心して学生を派遣できる大学と確認し、今後の交流の可能性について話し合いました。2002年度より半年から一年の長期留学先として新たな選択肢が増えることとなりました。

シンポジウム

『日韓関係の将来を考える』韓国啓明大学

本学と韓国の大学との新たな国際交流の可能性を模索して、2001年9月韓国の啓明大学において「日韓関係の将来を考える」シンポジウムが行われました。本学から発題者として金永秀講師と新垣誠助教授が参加し、日本の歴史教科書問題や日本における民族問題等について活発に意見をかわしました。韓国大学生からの意見として、「新しい歴史教科書をつくる会や小泉総理大臣の靖国神社参拝等を見ていると、かつての軍国主義国家に逆走しそうで危惧される」という意見や、「過去は過去としてこれからの日韓両国の友好関係を築いていくことが最も重要だ」という意見が聞かれました。



退職される先生方



退職するにあたって

■保育科教授
神山美代子

45年前、沖縄キリスト教短期大学は、現日本キリスト教団首里教会で産声をあげ、その後、首里城の一角に短大独自の建物が与えられ、1989年9月、現在の西原キャンパスに移転してきました。私は宣教師館を出入りする中で、短大設立に中心的役割を果たしてこられた諸先生方の働きを、側面的にみてきた一人です。今、短大は4年制大学に向けて大きく羽ばたこうとしています。退職するに当たり、これまでのご厚誼に対して短大の設立母体である日本キリスト教団沖縄教区初め、短大・教職員その他関係者ご一同様に衷心より感謝いたします。

なお、本短大が当初からの建学の精神が継続的に堅持され、充実・発展し、沖縄唯一のキリスト教大学としての使命を果たしていけるよう、願ってやみません。



恵まれた教育研究環境に感謝

■保育科教授
神里博武

キリ短では、約11年間、恵まれた環境のもとで、社会福祉の教育・研究に携わることが出来、心から感謝しております。特に、印象に残っているのは、1993年度から始めたコミュニティサービス・プログラムや1996年度から学生50名で始めた、愛隣園での学習ボランティアの支援、昨年夏、地域の子どものための「仲良しプログラム」などがあります。今後、大学同士、連携した教育・研究が出来ればと願っております。



大学生生活

本短大は、厳しいカリキュラムとキャンパスでの自由で明るい学生中心の学風を守り続けてきた。この雰囲気を作りだす大きな一翼を担ってきたのは学内行事である。2001年度の主な行事を振り返ってみたい。

新入生オリエンテーションキャンプ

このキャンプは、新入生にとって学生生活をより豊かに、そして、一人ひとりが望ましい学生生活の方向づけを得るためのプログラムである。全新生、全教育職員が参加して今年も又、渡嘉敷島の「国立青年の家」で2泊3日実施された。

このオリエンテーションキャンプのあとのキャンパスの表情に、あのまぶしいほどに明るく、イキイキした風景がかえってきた。



全学集会

2001年7月12日(木)7・8時限の時間に実施された。今年度は少し趣向を変えて、音楽を流したりとプログラムがスムーズにながれるように工夫した。キリ短の未来に関わるテーマで、例年になく教職員の参加が目立った。テーマ:「キリ短の四大を考える一四大をつくろう」

基調講演:比嘉健次郎
(英語科教授)

参加数:92名
(学生53名、教職員39名)



キリ短祭

学生会主催の最大のイベントです。今年のテーマは「Something New」。新世紀に向けての摸索と、そして改革を掲げて発足した今度の学生会にふさわしいテーマであった。まず前夜祭を、パレット久茂地広場のエイサー団で盛りあげ、本祭典11月17日(土)・18日(日)の両日、多くの地域の人たち同窓生も集まり素晴らしい祭典に終った。



沖縄歴史・文化学習会

留学生を対象に毎年12月に行われるこの学習会は第2回目を迎えた。今年は2000年度世界遺産に登録された城跡群を終日バスで巡り、専門家のガイドや資料館での見学を通して見聞を広めた。中国や台湾、インドネシアからの留学生を含む18人が参加し、移動の車内も三味線やギターに合わせて歌と笑いが絶えることなく、始終賑やかな一日になった。



就職活動

就職は真剣勝負

1年次の就職ガイダンスに始まり、就職セミナー、インターンシップ、企業訪問など人生と職業について真剣に向き合った。





地域交流

夏休み仲良しプログラム西原町の子ども達(200名)が参加

—大学を地域の学びと交流の場—

昨年の8月14日(火)、15日(水)、16日(木)の3日間、沖縄キリスト教短期大学で西原町の子ども達、保護者、本学の学生、教職員が参加して、2001年度夏休み仲良しプログラムが実施されました。このプログラムは、短大の教室、校庭等の施設や機能を開放して、地域の子供達と学生・教員が遊びや学びを通して交流を深め、子ども達に大学を身近に感じてもらう、知的好奇心を持ち、深めてもらうと共に、大学の地域貢献に役立てることを目的に開催したものです。

開催に至るまでに、西原町教育委員会、子ども会育成連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会と準備のための会合を重ね、日程とそれぞれの役割を決めて、本学に学長を委員長とする実行委員会を設置しました。

同プログラムは実行委員会とボランティアによって準備され、3日間、実施されたものです。同プログラムは地域からの要請によって取り組むことになりましたが、本学では2001年度予算に同プログラム費は計上しておらず、当初計画から同プログラムに賛同する教職員、学生の有志によって準備が行われ、寄付金によって実施されました。資金面では大城理事長の協力もあって、「西原町人づくり支援の会」、「西原町産業通り会」「金秀商事株式会社」から資金面の支援と「沖縄食糧株式会社」から、おにぎりやカレー用の御飯の寄贈がありました。心から感謝申し上げます。

同プログラムには202名の申し込みがあり、3日間とも120から150名程度の子ども達、保護者が参加しました。主なプログラムは、児童文化研究会による人形劇、エイサー(以上は学生)、音楽、造形、ことば遊び、英語の各クラス、「親と子でおいしいのを作ろう」等で、これらのプログラムには教職員、学生のボランティアが奉仕してくれました。

プログラムは3日間とも午前10時から午後2時まで行われました。開催初日は、午前中が体育館で開校式、人形劇、全体レクが行われ、午後は音楽(新垣先生)、造形(吉村先生)、ことば遊び(上原先生)、英語(キャシイ先生)のクラスが開かれました。

2日目はチャペルで全体会とチャーチオルガン紹介、その後は、音楽、造形、ことば遊び、英語の各クラスと、「親子でおいしいのを作ろう」が行われました。3日目はまず全体会と歌、ことば遊び、英語のクラス、エイサー、午後は町子連による民舞、閉校式がありました。

次に参加した子ども達、保護者の声を紹介します。

★たのしかった。えいごとおえがきました。まりつきもしました。ABCDEF GHIをかきました。みんなでごはんをたべました。りえせんせいとおにぎりを作りました。えいごのうたもしました。(坂田小1年)

★とつてもたのしかった。きょうもきたので、今年もきた。わたしがびっくりしたのは、大学でけんしきができるのが、すごーくびっくりしました。来年もせつたいきたいと思いました。ちよーちよーちよーおもしろいね。(西原南小4年)

★3日間の最後の1日しか参加できませんでしたが、すばらしい1日でした。特に英語クラスは子ども達も生き生きとした顔があり、とても楽しかったです。また、来年も参加したいと思います。ありがとうございます。(西原南小6年)

★すばらしい企画をしていただきましてありがとうございました。楽しい体験をさせていただきました。子ども達も友達が出来た、楽しかったと満足しています。今後も継続できますように、スタッフの皆様、ありがとうございました。(保護者)

★開かれた大学を身近に感じ、大学(キャンパス)に親しみを感じました。エイサーのレッスン、マンツーマン体制で、大きくなって、一生忘れることのない体験になったと思います。子ども達にとって宝物になるでしょう。(保護者)

★地域にこんなにすばらしい学校(設備)があるのに利用しない手はないと思います。学生の皆さんも協力的でとってもすばらしい保育士になる事と思います。これからも毎年続けてください。(保護者)

参加者からは今後の課題として、プログラム面では、子ども達が普段体験できないようなことや内容面のレベルアップを図ってほしい。昼食の準備(担当者や調理器具)をもっと考えてほしいという声がありました。今回のプログラムは、予算ゼロという無から出発して、200名余の子ども達が参加したプログラムに発展したことは、本学の教職員、学生、地域の多くの方達の熱意、協力によって成し遂げられたもので、心から感謝申し上げます。次回に向けて多くの課題を残すことになりましたが、大学を良くしたい、地域に貢献し、教育力を高めたいという強い思いがあれば必ず、道は開けることを今回の取り組みは、教えてくれたと思います。

■保育科教授 神里博武



▲たのしい食事



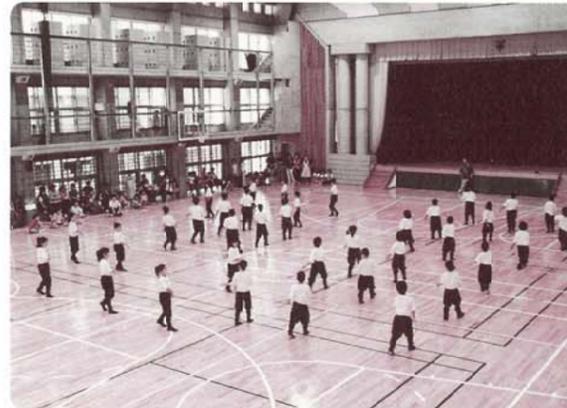
▲学生ユニオンで



▲英語でゲーム



▲クレヨンで環境を写しとる造形遊び



▲子どもたちも踊りを披露



「小学校英語授業ボランティア」

新学習指導要領によって新設される「総合的な学習の時間」において、2002年度から英語教育活動が小学校で可能となる。実施に向けて、多くの小学校でその取り組みが始まっている。本学では、坂田小学校の要請を受けて、昨年から教職コースの2年次がボランティアとしてその英語指導に関わっている。本年度は、坂田小学校ばかりでなく、「総合教育C」における地域ボランティア活動として、あるいはまた個人的なボランティア活動として、西原小学校、港川小学校、垣花小学校、浦添小学校において多くの学生が英語指導を行った。(小学校英語教育はその緒についたばかりで、条件整備等の課題を抱えている。カリキュラムや教材の揃わない中で授業をするとすると学生たちの負担はかなり大きい。)ほとんどの学生が、「大変だった。」とその苦勞を語るが、同時に「子ども達が喜んでくれるのが嬉しかった。」「やって良かった。」との感想を述べている。そして子ども達の様子を伝える時の表情は本当に楽しそうである。自分達の指導を通して子ども達が英語の楽しさを感じとってくれるのなら、ボランティアとしてこんなに嬉しいことはないであろう。

■英語科助教授 村田典枝

チャレンジウィーク 国際交流で「心の教育」

西原町教育委員会の取り組みとして、約450名の中学2年生を対象に130余の事業所や福祉機関などで体験学習をさせるという「チャレンジウィーク」が2001年7月に実施された。職場体験やボランティア等を通して課題を見つけ、解決していく「生きる力」の育成と将来を見詰める機会作りを目指したものである。

本学では、7月2日より5日間8名の中学生が国際交流をテーマに体験学習に挑んだ。学生と一緒に講義を受け、汗まみれでサルサを踊り、烏龍茶の美味しい入れ方を学び飲茶を楽しみ、自分の名前を中国語で発音しては、豪快に笑い、はしゃぐ彼女たちが印象的だった。

最終日に留学生を交えて行われた昼食会の席で、突然一人の中学生が泣き出した。聞けば、「別れが辛い」と。別の生徒は、教育委員会の報告集で「超楽しかった」「将来キリ短で学びたい」と嬉しい感想を語ってくれた。

■国際交流室担当 安里満理子



キャンパスライフ

「意思前進」



■学生会会長 正岡 伸 悟(44期 英語科)
沖縄に移り住み、キリ短で学び過ごしてきたあつという間の2年間。「波乱万丈」で『破天荒』な、でも本当に誰にも真似できないようなすばらしい経験を送ってきました。学内では学生会長等大役を任せられ、学園生活をより濃く送り、また国連大学や九州アジア大学、そしてボランティアと学外の行事活動にも積極的にチャンスを生かしてきました。そのタイトル「意思前進」は「以心伝心」の言葉遊びです。県外出身の私が2年間精力的にやってこれたのは、気持ちをわかって応援してくれる人が支えになってくれているからやりたいことに意思を強くもって前進できたと思います。本当に心から充実した学園生活でした。沖縄に来てよかった・・・

「キリ短で学んだこと」



■郷土文化研究サークル部長 豊川 優 紀(44期 保育科)
短大2年間の生活で「大事な出会い」があり、多くの「素晴らしい経験」をしてきました。こんなにいい思い出が作れる学校はめったにないと思います。大学だけの友達ではなく、「一生の友達」でいたいと思う人もできました。夜空に輝く月の下で踊ったエイサーは最高だったし、自分の選んだ道、保育実習で味わった挫折などは本当にいい経験になりました。今は、みんな社会に向けて羽ばたこうとしています。それでも私は、キリ短での生活を忘れることはないと思います。私は、最高のクラス、最高の友達、最高の保育科、最高の先生方、サークル活動ではエイサーやサッカー、シグマソサエティ(ボラティイ)等、色々な意味で学校が楽しかった。キリ短最高!!

「みんな、みんな、ありがとう!!」



■ともとむね 小禄朝也・新城宗史(44期 保育科)
キリ短に入学して2年が経って、もう卒業! 本当に楽しい学生生活をおくったなあ! この2年間、「すてきにたのしく〜笑顔・気合・根性〜」を合言葉に勉強も音楽活動もがんばり、去年は、「あんしんのひっこしTVCMオーディション2001イメージソング部門」に応募し、グランプリをいただきました。でも、僕たちがここまでやってこれたのも、キリ短で出会った全ての友達の助けがあったと思います。この学校で学んだ一番大切なことは、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という「励まし合い、助け合う心」です! キリ短でのたくさんの思い出、きっと忘れない忘れられないと思うよ! そして、きっと卒業しても、みんなここに遊びに来ると思う! だって、ここにはいつも、やさしい風が吹いているんだもん!

「キリ短が与えてくれたもの」



■社会人入学生 高良 園 美(45期 英語科)
「英語のキリ短」で2年目の春を迎えた。社会人を対象としたAO型入試選抜の募集に無我夢中で飛びついて入学した私だが、レベルの高いキリ短で本当にやっていけるのか不安もよぎった。しかし、ネイティブスピーカーの先生によるオーラルコミュニケーションや文章表現力を養う表現技法。そしてインターネットまで駆使するコンピューターリタラシー等、これらの課題をこなすうちに、いつの間にかキャンパスライフを満喫している自分に気づいた。また、急速に進む国際化の波を直に肌で感じ取れた事は、子どもに対する教育にも良い影響を与えてくれた。私の入学式を父母席で見守ってくれた中学1年生の娘は、実り多い行事に共に参加した事で、国際感覚豊かなキリ短を自分の進路に考慮し始めた。

留学生紹介



■中国 陳 新本(45期 英語科)
私は言語がとても好きなので、日本語を学ぶため、沖縄にやってきました。日本語学校で1年の勉強を通して、沖縄キリスト教短期大学に科目履修生として入学しました。綺麗な自然に囲まれているこの大学では、英語が重視されているため、日本語だけでなく、英語もうまく勉強することができます。そのうえ、カリキュラムも合理的であって、学習に良い雰囲気がつくられているため、私にとって、まさに理想的な大学ではないかと思う、正規に入学することを決意しました。初めて両親と遠く離れていて、多かれ少なかれ心細く感じますが、これこそ自分を磨く機会であり、良い勉強になったと思います。
人間は、だれでも自分一人だけでこの世に生まれ、そして、育って今日あるわけではありません。この社会で自分をうまく動かしていくには、まったく知らないところの人や、まったく異なった世界の人とも、進んで会って、そしてそこから何かを聞き取る事が大切です。人に会ったならば、かならず何か自分に無いものを得ることが出来ます。このように一人でも多くの人とつながりを持つ、人脉をつくと、そしてその人からその人の努力成果の賜である素晴らしい一面を学び取っていきます。一人の人でも、多くの人と会うならば、それだけで私自身の人間としての幅はでき、また、力が伸びてくることでしょう。



児童文化研究サークル活動

天衣 王求 麻戸 幸段 (夕刊) 第3種郵便物認可



「にじいろのさかな」

「にじいろのさかな」... 友達ができたか考えて... 外国で生まれた絵本だ... 姉さんとお兄さんたち... 「にじいろのさかな」は最新作で、三月に卒業する野原千秋さんや、大城麻乃さんたち、二年生のお姉さんたちが、



劇が終わると子どもたちが触ったり、大人気のキャラクターたち

優しい気持ちになって

去年の十一月にあった短大祭に間に合わせてつくったんだって。原作の絵本も、海のキャラクターが色とりどり、とってもきれいだ。そのうち、自分が持っているウロコを仲間に分けると、結局自分には一枚しか残らなくなるけど、みんなが喜んでくれることが、うれしいと思えるようになる。そうして、仲間たちが「遊ぼう」と誘ってくるようになった...



人形劇「にじいろのさかな」＝豊見城村社会福祉センター

「自分の分けたり、仲良くすることの大切さを知って、優しい気持ちになれるように」。お姉さんたちは、この人形劇をみる子どもたちのために、こんな願いを込めたのでした。



沖縄キリスト教短期大学児童文化研究サークルのお姉さんたち

2002年2月22日(金)琉球新報掲載

ビューティフル ライフ

■児童文化研究サークル
公演をするたびに、ほめられてばかりの児文研でしたが、ある公演先で初めて思うように出来ませんでした。悔しい思いと同時にありがたさを感じ「その人を納得させることができるような作品を創ろう」とメンバーの気持ちが一つになりました。
試行錯誤の末、出来上がったのが人形劇『にじいろのさかな』です。みんなで命を吹き込んだ人形たちが、子どもや大人を笑顔にし、私たちのもとへ喜びとしてかえってきます。
児文研での貴重な経験は、私たちの学生生活を豊かなものにし、大きな自信を与えてくれました。卒業後も仲間の輪を広げ、このような活動を続けていきたいと思っています。
*『にじいろのさかな』マーカス・フィスター作 谷川俊太郎訳



がんばってます! 同窓生!!

四年制大学の実現へ向けて

■沖繩キリスト教短期大学同窓会
会長 知花真康

沖繩キリスト教短期大学の同窓会のみなさん! おかわりありませんか、それぞれ与えられた場所で、元気にお励みのことと思います。お一人お一人のご活躍を覚えて祈っております。また、皆様には同窓会の働きを覚えて、暖かいご支援とご協力を下さり感謝しています。

私ども同窓会の役員15人は、沖繩、本土、世界の各地におられる1万人近くの会員の名簿をつくり、交流を深め、同窓会の目的である、キリ短の発展に寄与すること、会員相互の親睦をはかることに、いろいろとプログラムを作って努力しています。

今、キリ短の大きな課題は、現キャンパスの敷地で2004年の4月開設をすすめている四年制大学設置の実現への取り組みです。設置資金7億円を必要とする莫大な資金の造成も、学校当局の計画に沿って、短大・後援会・同窓会は力を合わせて、ともにヴィジョンの実現に努力しています。

社会は経済の復興の目処もつけられないほど、厳しい状況にありますが、同窓会のみなさまの若さとヴァイタリティーあふれるエネルギーとをもって、四年制大学の実現にともに励みましょう。近くまたは遠くにおられる級友とも連絡をとり合い親しく交わり、キリ短の将来を語りつつ協力できることを願っています。

同窓会の役員会への要望や連絡も、どうぞお知らせ下さい。God bless you!

同窓会役員

役職	氏名	期	勤務先
会長	知花真康	3期	日本キリスト教団 首里教会
副会長	前里光信	8期	西原町議会議員 金秀アルミ(株)
	知花節子	10期	沖繩県建設業協会
	平田 勉	15期	琉球大学
書記	吉濱幸子	21期	沖繩キリスト教短期大学
会計	西銘純子	12期	沖繩キリスト教短期大学
監事	喜友名静子	7期	沖繩キリスト教短期大学
	大城定子	11期	沖繩キリスト教短期大学 非常勤講師

※同窓会連絡先: 沖繩キリスト教短期大学
総務企画課 ☎098(946)1238

四年制大学設置支援募金 同窓生1人 1万円目標

2001年度 同窓会の主な事業

- 新入生への記念品贈呈(入学式) 4月2日(月)
- 定期総会開催 7月26日(木)
- 沖繩キリスト教短大学生会役員との懇親会 6月2日(土)
- 同窓牧師の集い 10月27日(土)
- キリ短祭への参加(焼きとり・喫茶) 11月17日(土)~18(日)
- グランドゴルフ大会(キリ短大中庭) 12月1日(土)
- ゴルフ大会
- 卒業生への記念品贈呈(卒業式) 2002年3月15日(金)
- 沖繩キリスト教短期大学開学50周年記念事業支援
- 四大設置募金の支援
- 沖繩キリスト教短期大学学生生活動への支援
- 同窓会会報発行



キリ短卒のアーティスト 一夢への道のり

■画家 仲本京子
(25期 英語科)

「どちらの美大出身ですか?」と、しばしば尋ねられる。私は画家であり、ここ5年ほど、毎年沖繩・NY・東京などで展示し、昨年は個人画廊までオープンしているのだから「キリ短出身です」との答えに驚かれるのも無理はない。

幼い頃から絵を描くのが好きであったにもかかわらず、あれこれ寄り道をして、受験目前の高校3年の頃、美大への受験準備など全くなしの私は、当然ながら「そんなことで画家になどなれるか」と親の反対にあい浪人もままならず、「頑張るなら短大へは行かせてやろう」とのありがたいお言葉とともにキリ短の門をくぐった。数えてみると20年も前の話である。その時から、私の夢の実現への長い道のりが始まった。

キリ短を好成绩で卒業し、なるべく給料の高いところへ就職し貯金して美大を受験しなおそうと目論んだ私の動機は不純ではあったが、先生方や友人にも恵まれ、2年間よく勉強したと思う。運良く損保会社に就職も決まり、夜、画塾に通いながら3年ほど働いて、さあ美大へ!—とはいかず、夫と出会って結婚し、出産、育児と続き、夢はさらに後回しに。

ついに10年勤めた会社を辞め、1年の準備期間を経て自宅でイラストやデザインの仕事を始めた。

3人の子育てをしながらポスター、パッケージなど様々な仕事をこなすうちに、現在私の創作の中心となっている、色鮮やかでコミカルなアクリル画「楽園シリーズ」が生まれた。長い時間がかかったが、どの経験も決して無駄ではなく、それぞれの場での人との貴重な出会いがあり、とりわけ結婚して家族との良い関係を築けたことが、なによりも画家への作品への近道であったと心から思う。忙しい日々の中、特別なことなど出来ないが、月に1度のキャンプ行きが、家族をまとめる秘訣だろうか。会社時代、自動車事故処理のセクションで培った交渉能力や一般常識は、デザイナーとしての仕事や、画家として海外の画廊と交渉する際にも大いに役立っている。特に米国では、意見をもたない人、疑問を発しない人は仕事上の信用を得られないほどシビアな「説明と表明の文化」を持つ。色々経験を積んで良かった、遠回りして良かったと思うのだ。夢と全くリンクしないところを歩いていると思う時でも、精一杯の力を尽くすうちに、いつのまにか求めるものの近くにたどり着くことができるのかも知れない。国際社会の共通語として君臨する「英語」。まだまだ流暢には程遠いが、たった26文字の便利な言語を徹底して学ぶことのできたキリ短での2年間は、今の私の画家としての人生に、大いに勇気と自信を与えてくれている。God bless OCJC!!

(ホームページ <http://www.kyokoart.com>)



▲同窓会からの記念品(卒業証書ホルダー)





寄付感謝報告

募金へのご協力ありがとうございます。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

指定寄付(2000年8月1日から2001年12月31日まで)

個人 ¥8,793,245 団体 ¥10,402,059 合計 ¥19,195,304円

施設設備

【父母】

仲本 政則	¥1,000
砂辺 幸夫	¥5,000
前里 博基	¥5,000
中村 長健	¥5,000
渡真利 敏	¥5,000
島袋 静子	¥5,000
平安 清	¥5,000
与座 澄雄	¥5,000
原田 秀之	¥10,000
比嘉 千代子	¥10,000
比嘉 正二郎	¥20,000
久手堅 憲正	¥5,000
伊波 哲男	¥10,000
伊波 寛	¥10,000
伊波 正勝	¥10,000
屋良 勲	¥10,000
河野 とよ子	¥10,000
久手堅 憲正	¥10,000
玉城 栄徳	¥10,000
玉城 正信	¥10,000
金元 美代子	¥10,000
崎原 朝裕	¥10,000
三宅 文男	¥10,000
小波津 弘明	¥10,000
新川 登	¥10,000
棚原 文男	¥10,000
知名 尚登	¥10,000
仲座 徹男	¥10,000
仲田 ミドリ	¥10,000
田中 満夫	¥10,000
平良 友敬	¥10,000
野村 稔	¥10,000
富山 まり子	¥10,000
久保田 ヒロ子	¥10,000
金城 壮兆	¥10,000
上門 善次郎	¥10,000
真喜志 康淳	¥10,000
津波 勝代	¥10,000
浜比嘉 太	¥10,000
本村 朝蔵	¥20,000
伊敷 盛雄	¥20,000
宮城 勉	¥20,000
宮城 祐子	¥20,000
山田 義幸	¥20,000
比嘉 正昭	¥20,000
木寺 辰巳	¥20,000
石原 昌憲	¥20,000
仲本 芳子	¥20,000
名幸 和美	¥20,000
宮城 章	¥30,000
川満 福代	¥30,000
池原 進徳	¥30,000
山内 義次	¥30,000
平良 朝雄	¥30,000
玉寄 長英	¥50,000
親泊 道子	¥50,000
渡慶次 正己	¥50,000
日高 清有	¥50,000
嘉手納 良信	¥50,000
大城 英嗣	¥50,000
仲松 弥善	¥50,000
下里 郁夫	¥100,000

【同窓生】

平良 美奈子	¥2,000
田島 群大	¥3,000
宮城 真奈美	¥5,000
城 百合子	¥5,000
上原 キーキー	¥5,000
新垣 由美子	¥5,000
安里 春美	¥5,000
知名 良美	¥5,000
知名 沙枝	¥5,000
譜久村 恵子	¥5,000
我如古 千夏	¥5,000
原田 泰幸	¥5,000
波座真 光子	¥5,000
比嘉 秋乃	¥5,000
伊波 真知子	¥5,000
石川 夏乃子	¥5,000
石川 夏紀	¥5,000
伊志嶺 重紗子	¥5,000
伊是名 まゆみ	¥5,000
神谷 恵	¥5,000
嘉納 由佳	¥5,000
古我知 留美子	¥5,000
久手堅 牧子	¥5,000
真栄城 美智子	¥5,000
松田 明子	¥5,000
松田 清香	¥5,000
宮城 阿歌里	¥5,000
名嘉 ゆずき	¥5,000
名嘉真 靖史	¥5,000
仲嶺 奈緒	¥5,000
仲村 綾子	¥5,000
仲村 姫園	¥5,000
仲宗根 澄香	¥5,000
名富 亜希	¥5,000
根路銘 さやか	¥5,000
西平 夏子	¥5,000
西銘 恵利香	¥5,000
大城 奈緒子	¥5,000
大城 さゆり	¥5,000
下地 真子	¥5,000
新里 ちひろ	¥5,000
新里 真理子	¥5,000
城田 聖乃	¥5,000
高江洲 ひとみ	¥5,000
玉城 由紀子	¥5,000
稲嶺 豪	¥5,000
田中 聡子	¥5,000
谷村 純代	¥5,000
桃原 蘭	¥5,000
渡久山 優	¥5,000
富山 千春	¥5,000
上原 ゆかり	¥5,000
山口 涼子	¥5,000
山城 美香	¥5,000
赤嶺 涼子	¥5,000
新垣 愛子	¥5,000
富名腰 典子	¥5,000
濱元 千明	¥5,000
花城 清香	¥5,000
伊波 薫	¥5,000
池間 綾香	¥5,000
石垣 久美子	¥5,000
嘉手納 真弥	¥5,000
垣花 千寿	¥5,000
神里 之乃	¥5,000
金城 朝香	¥5,000

【同窓生】

金城 真紀	¥5,000
古謝 亜希子	¥5,000
古謝 美春	¥5,000
米須 利香	¥5,000
久嶋 友絵	¥5,000
松田 知佳	¥5,000
宮城 悦子	¥5,000
宮城 朋代	¥5,000
宮里 麗子	¥5,000
長田 千秋	¥5,000
仲里 綾乃	¥5,000
根間 久美子	¥5,000
大重 翼	¥5,000
大城 静	¥5,000
崎間 亮香	¥5,000
島袋 恵里子	¥5,000
照屋 あづさ	¥5,000
照屋 美和子	¥5,000
渡久地 美紀	¥5,000
徳地 泉美	¥5,000
富山 ちさと	¥5,000
上原 さつき	¥5,000
屋嘉比 聖子	¥5,000
吉田 敦子	¥5,000
瑞慶覧 真子	¥5,000
保坂 麻希子	¥10,000
仲宗根 江里	¥10,000
大城 葵	¥10,000
瑞慶覧 若菜	¥10,000
真喜屋 光子	¥10,000
今西 理絵子	¥10,000
嘉手納 純	¥10,000
上原 民子	¥10,000
赤嶺 りり子	¥10,000
具志堅 涼子	¥10,000
鳩間 倫子	¥10,000
兼本 みや子	¥10,000
加納 奈緒子	¥10,000
川満 奈穂子	¥10,000
宮城 知子	¥10,000
新垣 佳苗	¥10,000
大城 ゆかり	¥10,000
知念 恵理香	¥10,000
我如古 梓	¥10,000
池上 美保	¥10,000
稲嶺 綾乃	¥10,000
幸良 英美	¥10,000
宮城 利香	¥10,000
仲里 めぐみ	¥10,000
大城 允	¥10,000
富山 久美子	¥10,000
浦崎 恵理	¥10,000
赤嶺 里奈子	¥20,000
宮城 綾乃	¥20,000
尾崎 仁美	¥20,000
神里 博武	¥50,000
神山 美代子	¥230,000
神山 繁實	¥720,000
真栄城 隆司	¥100,319
新垣 美智孔	¥500,000
上原 明子	¥65,000
山里 恵子	¥400,000
山城 真紀子	¥50,000
玉寄 勝也	¥19,000
吉濱 幸子	¥8,103
喜友名 静子	¥100,000
黄 君豪	¥190,000
【一般】	
渡慶次 富美子	¥5,000
上地 美枝子	¥10,000
川西 康裕	¥20,000

【宗教関係】

大森泰夫	¥200,000
佐敷教会	¥2,000
糸満教会	¥10,000
よきサマリア人伝道所	¥50,000
日北米宣教協力会	¥107,000

【学校関係者】

町田 妙子	¥10,000
川平 博一	¥12,000

【教職員】

平良 みどり	¥17,000
外間 きみ子	¥22,000
西銘 純子	¥50,000
神里 博武	¥50,000
柳澤 千恵子	¥93,000
大城 宜太郎	¥130,000
津波古 きくえ	¥160,000
大城 実	¥190,000
村田 典枝	¥270,000

【その他】

沖縄キリスト教短期大学後援会	¥5,000,000
沖縄キリスト教短期大学同窓会	¥1,150,000
昭和レジデンス	¥30,000
とわの森三愛高等学校	¥10,000
相愛幼稚園	¥10,000

四大制大学設置資金

【同窓生】

砂川留美子	¥5,000
新里ヨシ	¥100,000
宮良美智代	¥5,000

【一般】

公開講座受講生	¥11,434
大城 経子	¥29,251
琉球大学英文科花の63年卒	¥12,000
比嘉 國郎	¥34,259
漢那 憲治	¥100,000

【学校関係者】

平田 勉	¥12,000
普天間 初子	¥36,000
大城 進一	¥120,000
新川 右好	¥110,000
山城 貴子	¥5,693
兼次 宏佑	¥30,000
金城 重明	¥30,000
久保田 照子	¥100,000
伊波 健二	¥90,000
安里 昌男	¥204,900

【教職員】

澤崎 千賀子	¥20,000
柳澤 千恵子	¥50,000
比嘉 健次郎	¥190,000
渡慶次 智子	¥16,000
仲本 美奈	¥14,000
大城 宜太郎	¥200,000
大城 りえ	¥22,000
前里 光盛	¥210,000
神里 博武	¥50,000
神山 美代子	¥230,000
神山 繁實	¥720,000
真栄城 隆司	¥100,319
新垣 美智孔	¥500,000
上原 明子	¥65,000
山里 恵子	¥400,000
山城 真紀子	¥50,000
玉寄 勝也	¥19,000
吉濱 幸子	¥8,103
喜友名 静子	¥100,000

【教職員】

下地 玄毅	¥90,000
-------	---------

【宗教関係】

折田 政博	¥1,924
知花 菊代	¥6,000
沖縄キリスト教センター	¥2,469
西原教会	¥5,000
読谷教会	¥10,000
読谷教会(光会)	¥10,000
読谷教会婦人会	¥5,000

【その他】

豊見城中央病院	¥19,990
みつる保育園	¥30,000

奨学金

【一般】

比嘉 美代子	¥50,000
玉城 利和	¥132,000
那覇中央教会	¥166,000
松島 寛容	¥166,000

【学校関係】

大城進一	¥50,000
------	---------

【教職員】

吉濱幸子	¥30,000
------	---------

【その他】

三協電気工事株式会社	¥602,000
沖縄ソノクラブ	¥600,000
西原町人づくり支援の会	¥150,000
沖縄キリスト教短期大学同窓会	¥50,000
ウィング美容室	¥50,000
有限会社オール開発	¥50,000
日本キリスト教保育所同盟沖縄地区	¥10,000

高校生英語弁論大会

沖縄海邦銀行	¥10,000
沖縄銀行	¥10,000
琉球銀行	¥10,000
沖縄電力	¥20,000
西原球陽堂	¥20,000
日本総合整美	¥40,000
国際システム	¥30,000
Ameku Enterprise	¥30,000
琉球放送	¥100,000

パイプオルガン献金

下地 厚子	¥3,000
山城 朝健	¥5,000

2000年度決算報告

本学決算は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されたものです。2000年度の資金収支決算および消費収支決算の概要は下記の通りです。

■資金収支計算書

(単位:円)

資金支出の部		資金収入の部	
科目	決算額	科目	決算額
人件費支出	598,758,742	学生生徒等納付金収入	693,091,500
教育研究経費支出	178,227,512	手数料収入	20,712,000
管理経費支出	36,098,799	寄付金収入	15,887,526
借入金等利息支出	22,079,585	補助金収入	133,738,492
借入金等返済支出	91,950,000	資産運用収入	7,758,071
施設関係支出	7,000,000	事業収入	3,637,390
設備関係支出	31,896,192	雑収入	82,556,029
資産運用支出	29,448,107	借入金等収入	3,500,000
その他の支出	194,089,071	前受金収入	374,347,000
予備費		その他の収入	233,421,371
資金支出調整勘定	△7,751,582	資金収入調整勘定	△444,788,202
次年度繰越支払資金	421,444,570	前年度繰越支払資金	469,379,819
支出の部合計	1,603,240,996	収入の部合計	1,603,240,996

■消費収支計算書

(単位:円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	決算額	科目	決算額
人件費	634,024,664	学生生徒等納付金	693,091,500
退職給与引当金繰入金等		手数料	20,712,000
教育研究経費	230,317,492	寄付金	24,284,219
(減価償却額含む)		補助金	133,738,492
管理経費	38,393,792	資産運用収入	7,758,071
(減価償却額含む)		事業収入	3,237,658
借入金等利息	22,079,585	雑収入	82,556,029
資産処分差額	143,353	借入金合計	955,377,968
予備費		基本金組入額	△99,250,000
消費支出の部合計	924,958,889	消費収入の部合計	866,127,968
当年度消費支出超過額	58,830,917		
前年度繰越消費支出超過額	561,148,893		
翌年度繰越消費支出超過額	619,979,815		